

## ■学校経営のポイント

### 小学校高学年教科担任制への対応

小島 宏

「中央教育審議会答申」(令和3年1月)や「義務教育9年間を見通した教科担任制の在り方について(報告)」(同7月)を受け、令和4年度から小学校高学年に一部教科担任制が導入されることとなった。このことが効果的に行われるようその在り方について考察する。

#### 導入の目的の確認

児童の知識・技能の向上や学びの高度化を図るために教科担任制を導入する目的は、以下の4点に集約できる。

- 教科指導の専門性のある教師の熟練した指導によって授業の質が高まり、児童の理解度・定着度の向上と学びの高度化を図る。
- 中1ギャップの解消など小学校から中学校への円滑な接続を図る。
- 担任や専科教員など複数教師による多面的な児童理解を通じて児童の心の安定に資する。
- 教師のモチコマ数の減少や授業準備の効率化により教育活動の充実や教師の負担軽減に資する。

#### 教科担任制で優先される教科

各地域・学校の実情に応じた取り組みをすることに留意し、専門性を持った教師によるきめ細かい指導と中学校の学びにつながる系統的な指導を充実させる観点から「報告」では、教科担任制の対象に次の4教科が考えられるとしている。

- 外国語:新規導入教科であり、中学校への連続性を持たせコミュニケーション能力の基礎を培う。
- 算数:数学的活動を充実させ、数学の良さに気づかせる指導をし、算数・数学に興味を持たせながら系統的な指導を行う。
- 理科:理科の面白さや有用性を認識できるよう指導し、中学校の科学的リテラシーを見据えた系統的な指導を行う。

- 体育:運動の楽しさや喜びを味わい、考えたり工夫したりしながら課題解決的学習を展開し、中学校の内容を見据えた系統的な指導を行う。

#### 先導的な学校における実践例

既に全国の学校で先導的実践が行われている。その一部を紹介する。参考にされ、自校流の実践に活用されたい。

- 同学年の担任同士で理科や体育などの交換授業
- 5・6年の担任同士で理科や英語などの交換授業
- 加配教員(算数や外国語)の専科と、担任同士の理科と体育の交換授業
- 近隣の中学校の教員が小学校に出向き、英語や算数の指導(専科制の場合や担任とのTT)

#### 現時点で見られるメリットと困難点

実践校によると、「ゆとりが生まれ児童と向き合う時間が増え、生活指導が充実した」「指導法や児童理解の意見交換が増えた」「教材研究や準備が減少し、担当教科の指導が充実し、専門性や授業力が向上した」「中学校へ円滑な移行ができ、児童も中学校も助かる」などメリットが報告されている。

その一方で、「単学級の学校の交換授業では負担軽減は少ない」「加配教員の配置が不十分」「特定の教科指導が欠落し若手教師の育成に危惧がある」「時間割編成や調整が難しい」などの指摘もある。

#### 校長のリーダーシップ

自校で創造的に考えつつ、先導的な学校の情報を検索し、それを自校の実態や指導体制に合わせて改善・工夫していく柔軟性も必要である。

小学校だけの工夫や中学校との連携だけでは限界がある。国や自治体に人材確保など環境整備を求める必要もある。

(こじま・ひろし=元東京都公立小学校長・(公財)豊島修練会顧問)

●アクティブ・ラーニングの「モヤモヤ」ぜんぶ解決。《大好評たちまち2刷!》  
**先生たちのリフレクション** 主体的・対話的で深い学びに近づく、たった一つの習慣

千々布敏弥【著】四六判 / 226頁 / 定価 2,200円(税込)

■研修誌・図書の小社への直接のお申込みは、小社HP <https://www.kyouiku-kaihatu.co.jp>をご利用ください。

